

平成22年2月20日

全国高等学校選抜自転車競技大会参加の競技者並びに監督の皆様

技術・審判部会からのお願い

1月に行われました、番組編成会議に起きまして、昨年同様競技者の安全確保の立場から様々な事故の報告や違反行為について意見交換が行われました。特に大会中の競技者の言動やマナーについて、指導者の持つ責任に意見が出ております。以下の点は、競技者並びに監督の責任において安全を確保しなければならない事項です。大会に来てからでは整備・点検に時間的、物理的に不可能な事項もあることから、大会参加以前に点検・整備を行い大会に参加して欲しいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

- 1 ヘルメットについて、シールの貼付の確認。劣化・破損・ひび割れの有無の確認。あごひもの適正位置の確認（ゆるすぎる場合、スタート地点での調整をすることもあります。）。
- 2 サドル・シートピラーの径とフレーム径の不一致やハンドル・ポストの径の不一致（径が違うことにより、競技中ゆるんだ場合、認められない事故になりますので、注意して下さい。）。
- 3 チェン・ピン、ナットの確認（ナットが無くなっている場合が有り、大変危険です。予備を用意しておきましょう。）。
- 4 ギアのゆるみやロック・リングの確認。ホイールによっては、汎用性の低い物もあり他メーカーの物では取り付けられないため、ロック・リングを使用していない競技者が見受けられます。
- 5 バー・エンドの固定の確認。落下しないよう固定して下さい。
- 6 クリートやペダルの確認。締め付けネジやナットの欠落が見受けられます。締め付けの確認（締め付け不良は落下につながります。）もお願いします。
- 7 最近では、最低重量を切る自転車もあります。負荷おもり等の貼り付けでは、検車は通りません。機材にて調整して下さい。
- 8 フレームの経年劣化や落車による傷等から急に壊れる事故がありますので、整備点検・安全確認をお願いします。フレームの適合についてもご確認下さい。

また、身体形態上の理由から、規定外の自転車の使用について、サドルを下げる・ステムを変える等**最大限の努力**をした上でなおかつ規程を越えてしまったときのみ申請をお願い致します。競技者のベストポジションで練習・競技するのではなく、規定の自転車に合わせる様お願い致します。また、申請書を取りあえず出しておこうでは、申請書の意味を持ちません。ご指導よろしくお願ひ致します。

技術・審判部会長 福田 俊彦